

繁藤月報

〒789-0583

高知県香美市土佐山田町平山 1748

天理教繁藤大教会

TEL 0887-57-9207 / FAX 0887-57-9246

夫婦問題と天の理

シリーズ「かしもの・かりものの理」を深く掘る

vol.8

最近、半年以上にわたって続けてきた「かしもの・かりもの」のシリーズ。おさらいではあるが、以前に私が提示したポイントは以下の三つである。

- ① この世は神の身体
- ② 人間の身体は神様からの「かりもの」
- ③ 心一つが我のもの

これまでの連載では「世界・自然」「自分の身体」「自分の心」の三つを主体に考えをまとめてきた。今回の内容では自分以外の人のこと、つまり「他者」についての関係性を交えて考えを深めてみたい。他者の中でも特に取り上げたいのは、タイトルにある通り「夫婦」である。

◆「夫婦」は幸い？それとも禍い？

夫婦といえどどんなイメージを抱くだろうか。愛や幸せといったイメージを抱く方もいれば、反対に「結婚は人生の墓場」という言葉もある。この読者がそう思っていないことを願うばかりだが、もともと他人の二人が夫婦となり、一番近くで人生の苦楽

を共に歩むのだからこそ、その関係は一筋縄でいかない。

そして夫婦の問題は関係不和や喧嘩だけに限らない。未婚、晩婚、離婚、嫁姑、少子化、子育て、DV、LGBTQなど。古今東西、夫婦にまつわる問題は多岐にわたり、十組夫婦がいれば、十通りの夫婦のスタイルがある。

いくら天理の教えがあろうと、「夫婦とはこうあるべきだ」と安易に言葉を投げつけることはできない。

ましてや夫婦歴が十年にも満たない私が偉そうに「理想の夫婦とは」と、のたまうのも甚だおこがましいし、ややもすれば自分の首を締めかねない。笑

◆「夫婦」の昔と今

そもそも一言で夫婦といっても、時代や国が違えば、その実態は大きく異なる。二つほど例を出そう。

江戸時代、我が土佐藩には離婚に関してある禁止令があったという。それは、「七回離婚することは許さない」というものだ。裏を返せば、六回までは許されるということである。「よくそんな甲斐性があるな・・・」と感心するが、これは土佐藩に限った話ではない。江戸時代の離婚率は現代と同等、もしくはそれ以上だったという研究もある。



また今年、おちばにある天理参考館では、モンゴル帝国のチンギス・ハーンの家系図が公開された。直径5m超におよぶ木綿の布には、チンギス・ハーンの子孫を中心に14世代目までの家系図が記されており、その人数はなんと約1万2000人だという。ちなみにチンギス・ハーンには五人の正妻がおり、諸説はあるがその他にも数十人、数百人の側室や妾^{めかけ}がいたというから驚きだ。

周知の事実だろうが、夫婦のあり方や価値観というものは、風土や文化、宗教、そして時代によって大きく変化するものである。



◆ お道の教えと「夫婦」

教祖がお教えくださった天の理は普遍的「※1」である。その教えをもとに「夫婦」について掘り下げていきたい。

天理教の原典には「夫婦」というワードがたくさん出てくる。まずはなんといつても、みかぐらうたの第2節だ。

このよ(世)のぢい(地)とてん(天)とをかたどりて
ふうふ(夫婦)をこしらへきたるぞな
これハこのよのはじめだし
「みかぐらうた・第2節」

「地と天」とはこの宇宙のことである。天は父性であり「く」とこたちのみこと(水の守護の理)」が、地は母性であり「を」もたりのみこと(火の守護の理)」が対応している。

また、おふでさきでは親神様を「神・月日・をや」と呼び方を

変えて表現されている。このように「月と日(太陽)」、「天と地」、「水と火」、そして「男と女」が対をなしている。

この相反する性質をもつ二つが一つに統合されることによって、この世界が創られ、人間やこの世界が成立している。これを「二つ一つ」という。そして、冒頭に記したように、この世界は親神様の身体であり、親神様のご支配、ご守護によって私たちは生きている。

教えに初めてふれる方には少し難解かもしれないが、私がここで伝えたかったことを一言にまとめるとするならば、「この世の出发点は夫婦である」ということだ。

「※1 普遍的」

時代や場所を超えて、変わらずにすべてのものに当てはまる性質や価値観



◆ 「夫婦」は楽しい

もう一つ、親神様の視点で夫婦はどういうものか、ということとを述べたい。おふでさきに、

ことしから七十ねんハふう／＼とも
やまずよハらすくらす事なら
それよりのたのしみなるハあるまいな
これをまことにたのしゆんでいよ
(11号59)
(11号60)

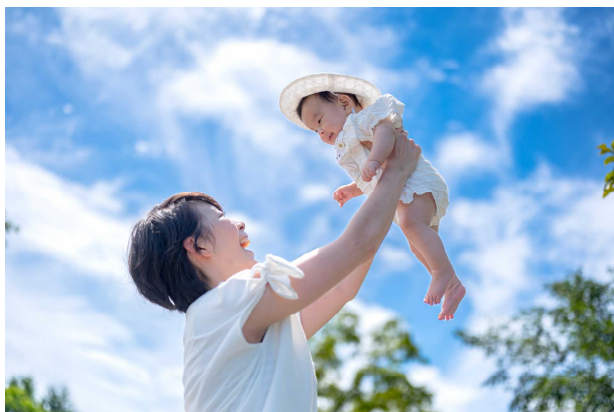
これは教祖のご長男・秀司様とその妻・まつゑ様の結婚にまつわるものだ。これから70年間、夫婦とも病氣にもならず老衰もせずして暮らす事が出来たならば、それより以上の楽しみは無いであろう。これを心から楽しんで通るがよい。という意味だ。

そして、同じく二人の結婚に際し、

せんしよのいんねんよせてしうごする
これハまつだいしかとをさまる

(一 号 74)

とのおふでさきもある。夫婦の本質は、惚れた腫れたとかいう人間の意思を超えたもので、魂のレベルで前生の「いんねん（親神様の意図）」があるということだ。そのいんねんを端的にいうなれば、「陽気ぐらしへ導きたい」という親神様の深い親心が込められているのである。



◆ まとめ「夫婦の天の理」

このたびの内容は「親神様の十全の守護」、「元の理」の一部だ。「かしの・かりものの理」を掘り下げていくのに、絶対に外せないものである。

ここで一点、ことわっておきたい。それは夫婦だけが幸せのカタチである、といたいわけでは決していないということだ。まし

てや離婚したら、男女じゃなかったら、子供を授からなかったら、ダメだとか幸せじゃないということでもない。

- 夫婦は人間創造、この世界の根本である
- 親神様のご守護のもと、夫婦で暮らすことは楽しいこと
- 夫婦の関係には、陽気ぐらしに導きたいという親神様のいんねんが込められている。

この揺るぎのない天の理こそ、このたび伝えたかったことだ。

夫婦関係で悩み苦しんでいる人は、昔も今も後を絶たない。「夫婦喧嘩は犬も食わない」ということわざがあるが、人たすけを使命とする我々天理教のようぼくはただ傍観しているようではないけない。犬も食わない問題であろうとも、ときには話を聞き、寄り添い、間に入ってもつれた糸を解いていく手助けをしていく。

そして、このたび述べた「夫婦」における確たる天の理は、自信をもって広く世の人に伝えていかなければならない。

立教一八八八年十月一日

天理教繁藤大教会長

坂本輝男

【立教百八十八年 九月 祭文】

これの繁藤大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に
天理教繁藤大教会長坂本輝男慎んで申し上げます。

“月日に八とのよな事も一れつにみなにをしへてよふきづくめに”との深い
お心により、元の理をはじめよろづ委細の眞実をお説き明かし下さると
共に、かんろだいのぢばを定め、つとめを教えて、よふきづくめの世界へとお
連れ通り下さいます御守護の程は、只々有難く勿体ない限りで御座い
ます。

私共はこの親心に凭れ、自由にお縫りして心の成人に努めると共に、たす
け一条の御用を懸念に励ませて頂いておりますが、その中にも今日の吉
き日は、これの教会にお許し頂く月々の御祭日でございますので、只今か
らおつとめ奉仕者一同心を一つに令わせ、座りづとめ、てをどりをつとめ
て、九月の月次祭を執り行わせて頂きます。御前には寄り集った信者一
同、日頃賜る厚き御恵みに御礼申し上げ、をやの御心に溶け込みながら
朗らかにおうたを唱和し、たすけ一条の決意を新たにさせて頂きます。
私共教会長を始め、ようばく一同は、年祭活動仕上げの時句にあたつ
て、特に今月にはいかけ強調の月であり、それぞれに委ねられた使命の
重さを心に刻み、己が姿勢を正し、素直ににいをいかけ、おたすけ、修理
肥に丹精を尽くさせて頂く所存でございます。

何卒、一同の心をお受取り下さいまして、激しく移り動く世上に對し
て、臆せず遅れず、だめの教えと、眞実の親のお働きを伝えて、人間思案
の迷いを払い、一れつ共に陽気ぐらしの道を歩むことが出来ますようお連
れ通りの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます。

《繁藤大教会 立教百八十八年九月 祭典役割》

祭主	指図方	属者	属者	賛者	賛者		男			女			地方			笛	チャンポン	拍子木	太鼓	すりがね	小鼓	琴	三味線	胡弓	神殿講話
大教会長	為田紀久男	田村久徳	空閑一将	佐々木恵	村上由高	座りづとめ	大教会長	前大教会長	田村辰久	大教会長夫人	前会長夫人	黒石伸子	宮田孝道	川田節夫	佐藤節幸	村上英士	為田紀久男	藤田憲明	田村久徳	坂本久徳	空閑一将	佐藤文代	佐藤順子	藤田洋美	村上英士
八足出し						てをどり前半	田村聡佐	伊藤正福	立花真一郎	宮田まゆみ	為田賢子	武市まち子	為田基紀	前田豊	竹下隆廣	空閑慶吾	竹内一祥	藤田誠	佐々木恵	空閑一教	田村省悟	田村純代	田村睦美	坂本喜子	
田村聡佐	立花真一郎	佐々木恵	田村省悟	村上由高	空閑慶吾	てをどり後半	土居道久	黒河明大	坂井博文	田村育与	村上綾	空閑真理代	村上由高	秋月英希	佐藤孝彦	田村庫治	高橋道則	藤田善典	村上修	黒石忠宏	立花孝一	宮田みなみ	佐藤明子	黒石美佐	

【神殿講話】

(10月) 諸井道隆 世話人先生

(本部准員 山名大教会長)

◆ 世話人先生と鍋を囲む会

今月の秋季大祭は世話人の諸井道隆先生の初めてのご巡教を賜ります。つきましては大祭前日20日の夕づとめ後、「世話人先生と鍋を囲む会」を開きたいと思えます。参加費は大人500円です。こぞってご参加ください。

【しげとうtime おかえり講話】

(10月) 宮田孝道

【教会長神殿当番】

(10月) 紋膽・胆澤

(11月) 百生・角野

【詰所教養掛】

(10月) 前半 安部道郎

後半 藤田誠

(11月) 前半 為田基紀

後半 村上英士

女性 空閑さとの

【詰所事務当番】

(10月) 黒石忠宏

桑野吉郎

(11月) 星野善胤

【ひのきしん】

○婦人会詰所ひのきしん

10月25日～26日(大教会2名)

【五季づとめ】

今月は五季づとめの月ですので、左記の通り上級の教会を通してお納め下さいますようお願い申し上げます。

記

一、五季づとめ 三、〇〇〇円

【布教部】

先月は、全教会布教推進月間でした。それぞれの立場でおつとめ頂き誠にありがとうございました。この動きを、年祭活動後の継続的な布教活動につなげられるよう、取り組ませて頂きたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

又、実働報告書の提出もお願いいたします。ご記入頂き10月20日迄に大教会まで、ご提出頂きますようお願いいたします。ファックスでも結構です。

【婦人会】

○みちのだいおはなし会

日時 11月26日(金) 午後1時～2時

場所 東講堂

テーマ 「日々感動 今日笑顔で」

高橋委員部会員

西田伸代先生

テーマ 「はい」に勝る返事なし

「笑顔」に勝る化粧なし」

都賀支部部会員

老沼早先生

※託児はありません

○ひながた勉強会(繁藤支部)

日時 11月25日(火) 午後1時半～4時

場所 繁藤詰所4階大広間

対象 どなたでもご参加ください。

※最後の回になります。

たくさんの方のご参加お待ちしております。

○こかん様につづく会(繁藤支部)

日時 10月25日(土) 午後1時～

場所 繁藤詰所

対象 女子青年から30代まで

※たくさんの方のご参加お待ちしております。

【青年会】

『第99回 天理教青年会総会』

「あの人のために おちばへ。」

・日時 10月25日(土) 午後1時

(午後12時20分詰所出発)

・場所 本部中庭

・懇親会 午後5時 詰所(女子青年合同)

今年は、25日の午後1時より、本部中庭にて式典が開催されます。週末の開催であり、次の日は秋季大祭でもあります。総会のテーマであります。「あの人のために おちばへ」の思いで大勢の青年会員さんと共に



総会特設ページ

おちばに帰らせて頂きたいと思いますので、大勢の青年会員さんにお帰り頂けますよう、お声がけのほどよろしくお願いいたします。

【教祖百四十年祭帰参調査】

教祖百四十年祭も段々と迫って参りました。ご本部から帰参者数の調査の依頼がありました。つきましては各教会には帰参調査票を同封しております。帰参予定の数、だいたいの数で結構です。今月20日までに報告下さい。それによりまして詰所での宿泊数を超えるようでありましたら、他の施設をお借りする手配をしなければなりませんので、必ずご報告下さい。併せて年祭当日の昼食弁当（おにぎり弁当2個入り）の数も予定数で結構です、ご報告下さいますようよろしくお願いいたします。

【初席者（8月）】

方城 北原妃菜 赤池 大西紅葉

【おさづけの理拝戴者（8月）】

奈井江 近藤成人 奈井江 近藤かつみ
奈井江 川合千明
城幡 Arthur Masashi Fujimoto

【教人資格講習（9月）】

紋別 渡辺朝之 城下 藤田慶一郎

【修養科志願者（10月より）】

北大津 星野喜胤 徳能 黒河重信

【おをびや】 2 件

【おまもり】 3 件

【終活・相続勉強会】

日時 10月25日（土）午後3時～4時半
場所 繁藤詰所4階大広間
対象 どなたでもご参加ください。
備考 参加費500円

（参加者にはエンディングノートをプレゼントします）

なお開催当日、現地で参加される方については、事前の申し込みは不要です。ただしオンライン参加を希望される方は、左記のQRコードより事前にお申込みください。



主 催 天理教繁藤大教会
協力 （一社）宗教者支援協会
外部講師 黒住教学院 学院長

長恒 彰浩先生

仕切り月（9月）

11 日 紋宝分教会
13 日 紋湧分教会
14 日 別府分教会
15 日 紋別分教会
15 日 板櫃分教会
23 日 北大津分教会



紋別分教会

教祖140年祭 三年千日の活動方針

明日に希望を、 今日を陽気に

～ひながたを心に、プラスワンの誠真実を～

実践目標

教会に人をお連れし、たすかる道を伝えよう
誠の理を、日々に働かそう
おさづけの取り次ぎ、チラシ配りの推奨
天理カードの登録推奨（目標 10,000 人）

教えに親しみ、ひながたを心の頼りに明るく歩もう
信者の葉を毎日拝読する
ご守護に気づき、身近な人に信仰を伝えよう
お道と社会に貢献できるようぶくを育てよう

ふしから芽が出るご守護をいただこう
心を定め、日々の理づくり・徳積みに励もう
「声は肥」旬を外さないよう+1の声かけを
月次祭を賑やかに勤めよう（仕切り月の実施）



繁藤公式 LINE で講話やブログなどを配信しています。
ぜひご登録ならびにご紹介をお願いします。



天理教 繁藤大教会
SHIGETO